11月幼稚園だより

令和７年１１月４日
千代田区立番町幼稚園
園長　美越　英宣

開会式の様子

栄光のメダルは努力の証

（番町幼稚園ＨＰ）

園長　美越　英宣

木々の葉が色づき、秋の深まりとともに空気が澄みわたる季節となりました。朝夕の冷気に冬の気配を感じながらも、日中には柔らかな陽光が園庭を包み、子どもたちの笑顔がその光に照らされて輝いています。さて、先日、親子スポーツデーを開催いたしました。当日は多くの保護者・地域の皆様にご来園の上、競技へのご参加や温かな応援を通して、子どもたちと心を通わせていただき心より感謝申し上げます。

今回の親子スポーツデーでは、特に２つの場面が印象深く、子どもたちの成長と園の教育の意義を感じる瞬間となりました。

第一は、各学年の競技における親子のふれあいと協同の姿です。３歳児もも組の「うちのこ　どーこだ！？」では、保護者の方が園児の中から我が子を見つけ、笑顔で手を取り合いながらゴールへと向かう姿が見られました。子どもたちは、おうちの方に見つけてもらえた喜びを全身で表現し、安心と信頼に満ちた表情で歩みを進めていました。４歳児さくら組の「びゅーんと　とんでいけ！」では、保護者と園児が力を合わせてボールを投げ合い、相手チームに向かって元気いっぱいに挑戦する姿が印象的でした。競技を通して、親子の絆と協力の力が校庭に響き渡りました。５歳児うめ組の「リバーシ」では、親子が気力と体力を尽くしながらボードをめくり合い、励ましの言葉を交わしながら真剣に取り組む姿がありました。勝敗を超えた、心の交流と挑戦の尊さがそこにはありました。

第二は、うめ組が最高学年として見せてくれた、堂々たる姿です。各演目の前には、園児自身による司会進行が行われました。それぞれの子どもが何度も練習を重ね、教職員等に見守られながら、言葉の一つ一つに思いを込めて本番を迎えました。その姿は、まさに責任と誇りを胸にした最高学年の証でした。

また、「オープニングセレモニー」では、うめ組の子どもたちが「中華獅子舞」「野球」「ダンス」の３つの演目を自ら考え、創り上げました。中華獅子舞は東京中華学校の生徒の皆様から直接ご指導をいただき、野球は元プロ野球選手の保護者の方から投げ方・打ち方・捕り方のこつを教えていただきました。ダンスは番町小学校の教員からアドバイスをもらい、自分たちで曲や振り付けを考えました。多くの方々のご尽力に感謝しながら、うめ組の子どもたちは努力を重ね、衣装も自分たちで工夫して作成し、当日を迎えました。その姿は、見守る者の心を打ち、もも組・さくら組の子どもたちにとっても、「こんな立派なうめ組さんになりたい」という憧れの気持ちを抱かせるものでした。

５歳児うめ組によるオープニング

バルーンを使った表現

そして親子スポーツデーの最後には、子どもたちの努力の証としてのメダルを、保護者の皆様のご協力を賜りながら贈呈いたしました。うめ組の園児には、私自身が一人一人に心を込めてメダルをかけさせていただきました。メダルをかけた瞬間、その表情には、これまでの努力の全てが映し出されていました。充実した顔、満足げなまなざし――それは、仲間とともに積み重ねてきた日々の証であり、心からの達成感に満ちた姿でした。その瞬間、私たちは改めて、子どもたちの成長の尊さと、教育の力を深く感じることができました。

親子スポーツデーは、子どもたちの心と身体の成長、そして人とのつながりを育む大切な場です。保護者・地域の皆様とともに過ごしたこの一日が、子どもたちの記憶に残り、未来への一歩となることを願っております。今後も、子どもたち一人一人の育ちを丁寧に見つめながら、保護者・地域の皆様と手を携えて、温かな園づくりに努めてまいります。引き続きのご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。